

@@

立命館大学スポーツ健康科学研究センターBeActive研究会
「BeActiveニュース」第11号 2016年8月8日（月）

@@

執筆者：友草 司（スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科・准教授）

平成28年度から立命館大学でお世話になっております。
昨年度まで高知県公立中学校の教諭(教育委員会職員)、校長をさせて頂いており、研究者としては未熟な点が多々ありますが、学校現場や教育行政での経験を活かして保健体育科授業研究・学校経営の分野で研究を進めてまいりたいと思っております。

①これまでに発表した論文

1)「中学校体育授業場面における教師の指導の必要性に関する検討:特に、バスケットボール授業の事例的分析を通して」
中学校保健体育科の授業に関して、教師の指導が生徒一律に、また同一場面において必要とされているのではなく、生徒の運動に関する有能感や体育技能の違いによって、また集合場面や運動場面によって必要とされる指導が異なる事を明らかにした。

2)「体育授業研究における再生刺激法の適用可能性ー特に、学習者の認知に関してー」
体育科授業中における学習者の思考を調査するための基礎研究として、再生刺激法が体育科授業においても適応可能かどうかを研究した。その結果として、理科の実験場面と同様に運動場面においても学習者の思考を再生刺激法を用いて調査する事が可能であることが分かった。

3)「ダブルダッチの教材としての有効性の検討ー中学校体育授業における事例実践ー」
ダブルダッチを中学校保健体育の教材とするために、どのような単元計画や指導計画など教材として構成することが必要であるかを明確にした。
教材研究では、「アルティメット」についても教材としての有効性を検討した。

②現在取り組んでいる研究

「『言語活動』を充実させる中学校体育授業指導プログラムの開発及び効果検証」
本研究は、中学校体育授業におけるバスケットボール単元を対象として、教師の「価値的発問」「創意的発問」「分析的発問」及び「回顧的発問」が、生徒の言語量を増加させ思考内容を深化させるのかを明らかにする。また、「言語活動」を充実させる中学校体育授業の指導プログラムを開発し、複数校で検証実験を行い、その効果を検証する。これらの研究を踏まえて、「言語活動」を充実させる中学校体育授業の指導プログラムを開発する。

③教員採用に係る取り組みについて

教員を目指す学生達と「教職について」「模擬授業」「面接試験」「指導案作成」などについて勉強する取り組みを行っています。まだ学生数は多くありませんが、学校現場で即戦力として活躍できる人材の育成を行いたいと考えております。
多くの学生諸君が教員を志して頂ける事を期待しています。

2016. 8. 8 Vol. 11. txt

@@
スポーツ健康科学研究センター
BeActive研究会
公式ホームページ

<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/spoken/index.html>

研究会イベント、シンポジウム情報、及びメルマガバックナンバーなど掲載！